

こども

# 子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

かみ

## 神さまに仕える

しょうねん

## 少年サムエル



ぶん

文: Edward Hughes

え

絵: Janie Forest

かいさくしゃ

改作者: Lyn Doerksen

ほんやくしゃ

翻訳者: Yuko Kajiki

監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ

出版社: Bible for Children

[www.M1914.org](http://www.M1914.org)

BFC

PO Box 3

Winnipeg, MB R3C 2G1

Canada

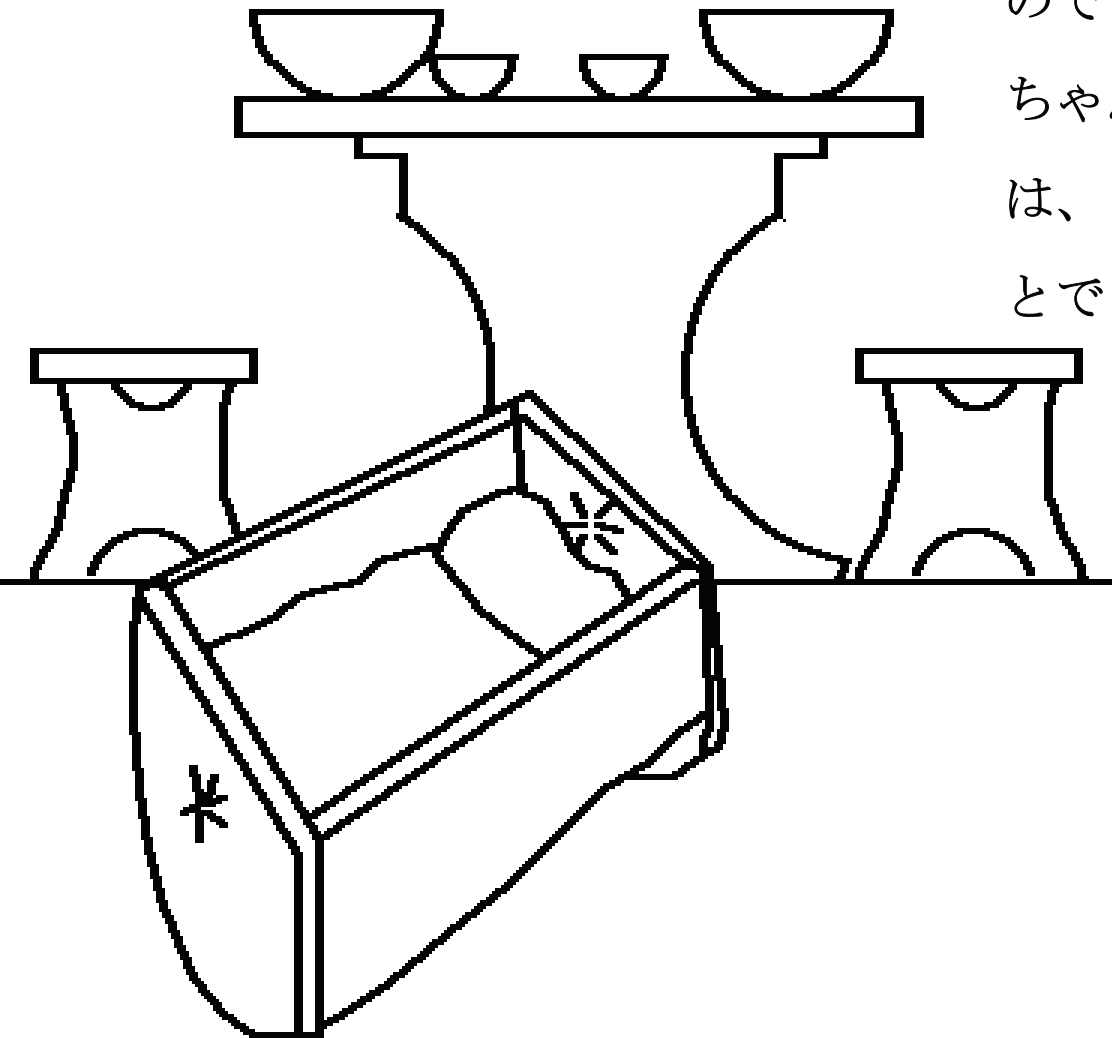
©2007 Bible for Children, Inc.

許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。



ハンナという、とても心やさしい女の人がいきましたよ。その夫エルカナも、  
ほんとうに良い人でした。2人とも神さまを礼拝し、ほかの人にもやさしくしん  
せつでした。でもね、ハンナは、なぜかさびしそう。何か思っていることがある

のでしょうか。じつは、ハンナは、赤  
ちゃんがほしかったのです。かの女  
は、どれほど赤ちゃんがほしかったこ  
とでしょう。まいにち祈りながら待ち  
ましたよ。きっと神さまが赤ちゃ  
んをくださるだろうと思い、たく  
さんたくさん祈って、待ちつづ  
けました。でも、神さまは、  
まだくださらないのです。





とし かみ  
まい年、ハンナは神さまの  
れいはいどう れいはい い  
礼拝堂へ、礼拝に行きまし

とし  
た。ある年のこと、ハンナは  
かみ いの  
神さまに祈り、こうやくそく

かみ  
しました。「神さま、もし  
おとこ こ

男の子をくださるのなら、

こ  
わたしはその子をいつまでも  
かみ つか だ  
神に仕えるものして、さし出  
すでしょう。」





れいはいどう とし  
その礼拝堂に、もう年をとっ  
ているエリという祭司がいま  
さいし  
した。かれは、ハンナが祈っ  
いの  
ているようすを見てこう思い  
み おも  
ましたよ。きっとハンナはぶ  
しゅ  
どう酒をのみすぎたにちがい  
じょ くち  
ない。かの女の口びる  
は、ずっとうごいてい  
こえ き  
るのに、声はぜんぜん聞  
こえてこないじゃない  
か。そこで、エリは  
ハンナをしかり  
ました。

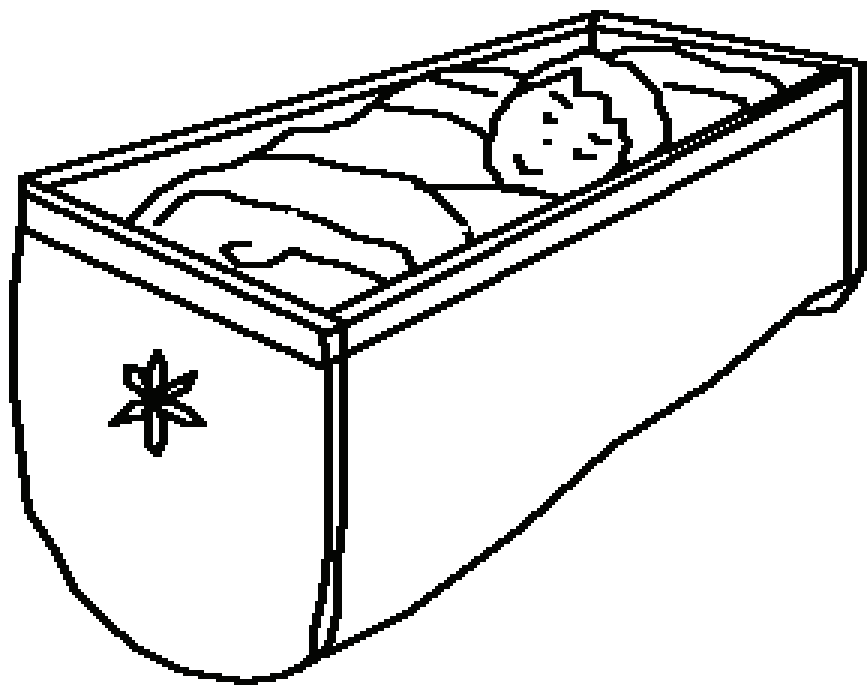




「いいえ、ちがうのです。  
わたしは<sup>さけ</sup>お酒をのんではい  
ません。」ハンナは、エリに  
こう<sup>い</sup>言いました。「わたしは、  
どうしても子どもがほしいのです。  
ですから、もし<sup>かみ</sup>くださったら、神に  
その子<sup>こ</sup>をささげるとやくそくをして  
いたのです。」それを<sup>き</sup>聞いたエリは、  
「どうぞ<sup>へいあん あた</sup>平安が与えられますよう  
に。」と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>って、ハンナをはげまし  
ました。「ハンナよ、イスラエルの  
神<sup>かみ</sup>さまは、きっとあなたのねがいを  
聞き<sup>き</sup>入<sup>い</sup>れてくださるだろう。」  
これを<sup>き</sup>聞いたハンナ、ほんとう  
にうれしくなりましたよ。



そのすぐ後のことあとです。ハンナはほんとうにうれしそうです。なぜってね、主しゅが  
かの女じょをおぼえていてくださり、祈りにこたえられたのです。とうとう、ハンナ  
とエルカナにサムエルというかわいおとこいこいう男の子が生まれたのです。サムエルとい  
うのは、かみ「神にかなえられた」という意味ですいみよ。でも、ハンナは、主しゅとやくそ  
くしたことを、まだおぼえているでしょうか。ちょっとしんぱいですね。





とし かみ れいはいどう  
じつは、まい年、神さまの礼拝堂  
れいはい い  
に礼拝に行っていたハンナが、どう  
い  
いうわけか行くのをやめてしまっ  
たのです。ああ、どうしましょう。  
かみ  
ハンナはやっぱり神さまとのやく  
そくをやぶってしまうつもりでし  
ょうか。いいえ、しんぱいしなく  
てもいいのですよ。ハンナは、た  
すこ おお  
だサムエルが少し大きくなるのを、  
しゆ  
まっていただけなのです。主の  
れいはいどう い てつだ  
礼拝堂へ行って、エリのお手伝  
かみ つか  
いをして、神さまに仕えられるぐら  
おお  
い大きくなるまでね。だから、サム  
すこ おお  
エルが少し大きくなると、ちゃんと  
れいはいどう  
礼拝堂へつれていきましたよ。







かみ ころ

神さまは、ハンナが心

かみ しん

から神を信じ、したがっ  
ていることをたいそうよ  
ろこばれ、それからも

さんにん ふたり

3人のむすこと2人のむ  
すめをくださいました。

もちろん、ハンナはまい

とし かみ れいはいどう

年、神さまの礼拝堂に

れいはい

礼拝にいきましたよ。

れいはいどう い

そして礼拝堂へ行くたび

に、サムエルのためにあ

ふく づく も

たらしい服を作り持って

いきました。





ひとり つた  
サムエルは、ただ1人でエリのお手伝いをしていたわけ  
じゃないのです。エリには、ホフニとビネハスという<sup>ふたり</sup>2人  
のむすこがいました。かれらもまた、エリのお手伝いを<sup>つた</sup>  
して、サムエルといっしょにはたらいていました。

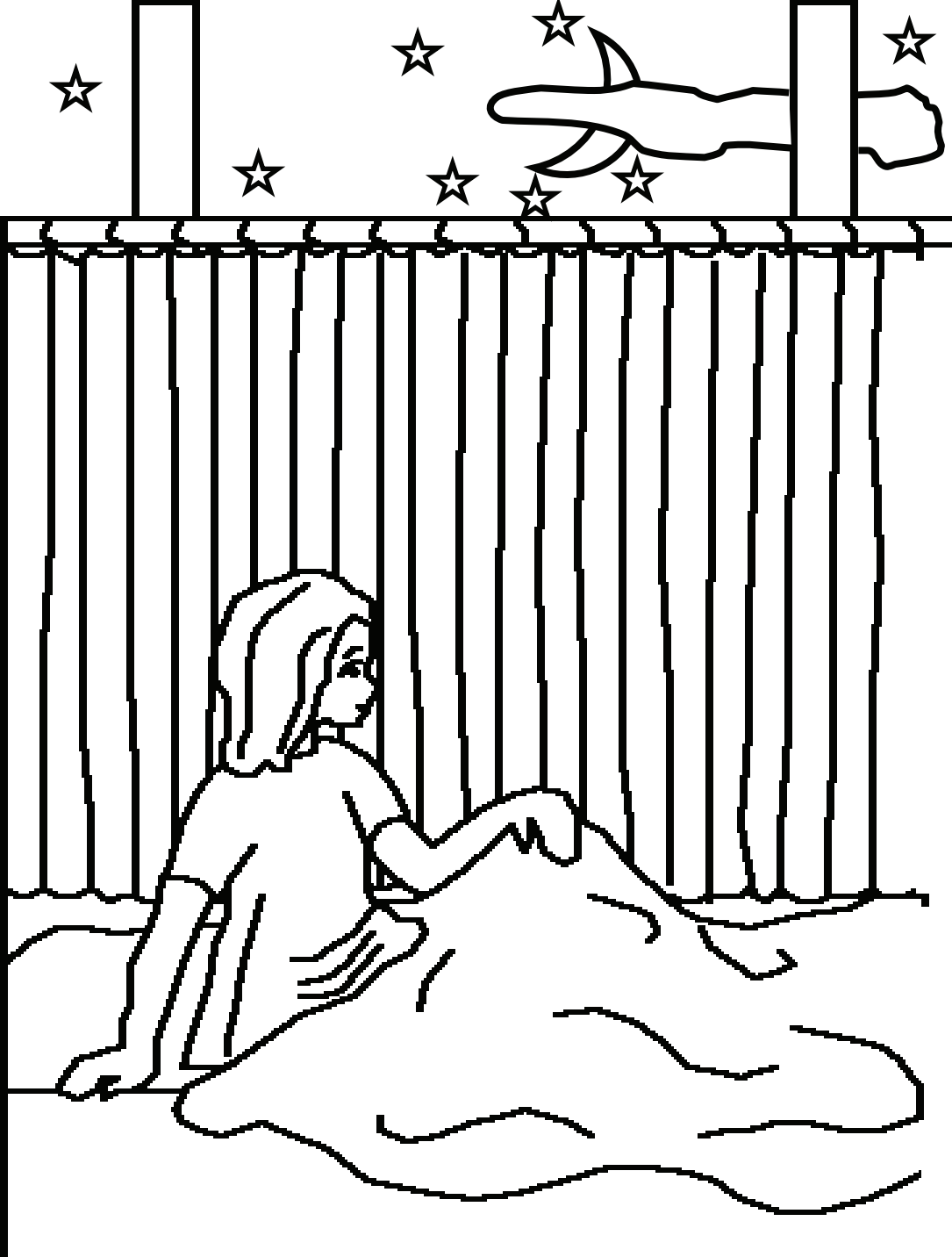
けれども、かれらは「<sup>かみ</sup>神さまなんか  
どうでもいいよ。」  
<sup>い</sup>と言って、よくないこと  
ばかりしていました。



とう ふたり かみ  
お父さんのエリが、2人に神さまにしたがうように  
たのんだときでさえも、聞<sup>き</sup>こうともしないで、  
やっ<sup>わる</sup>ぱり悪いことばかりしていました。

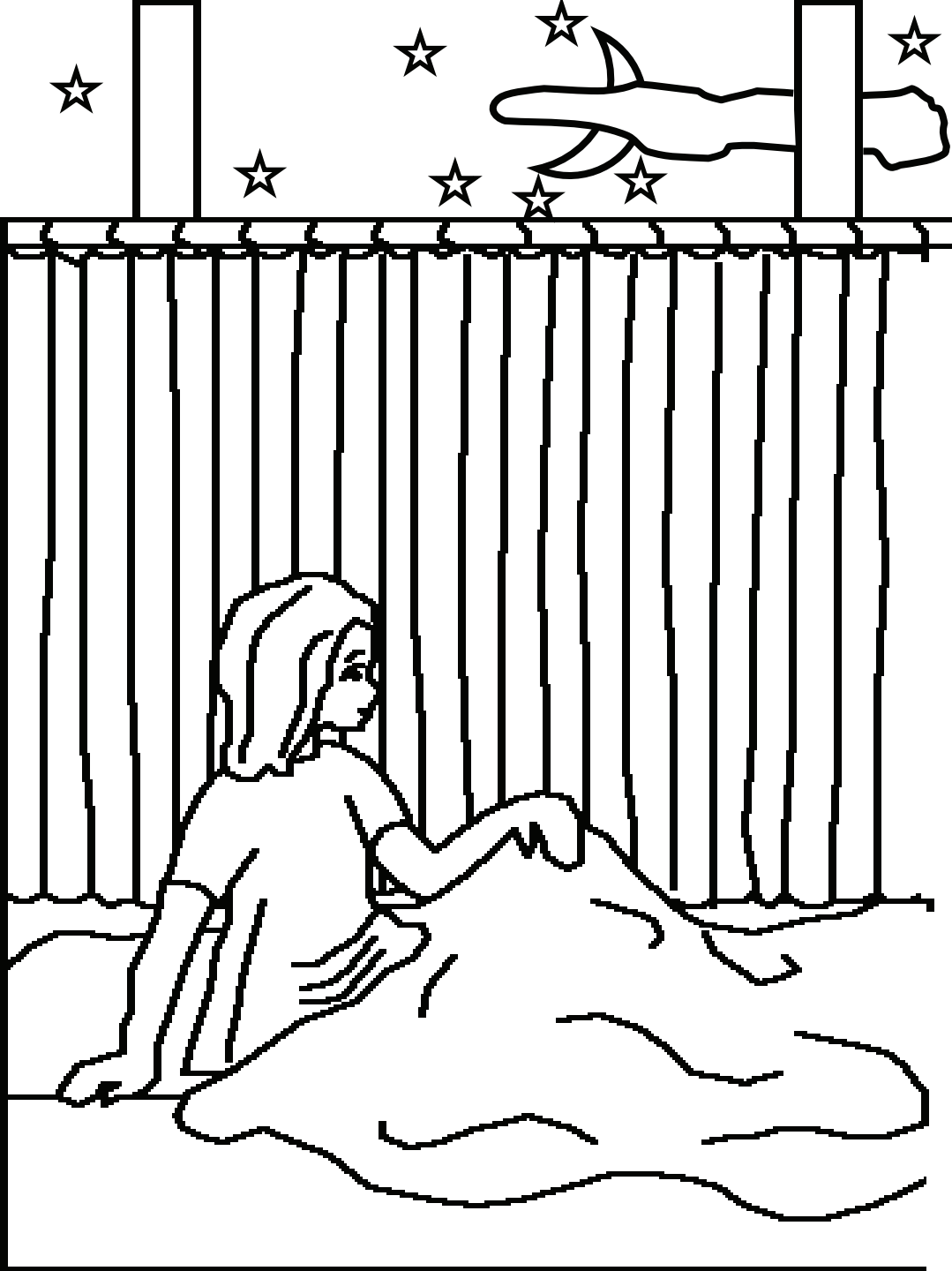
エリはむすこたちに、「出<sup>で</sup>て行<sup>い</sup>っておくれ。  
もうおまえたちは、ここではたらくことはで  
きない。」ときっぱり言う  
べきだったのですね。  
でもエリはそう言<sup>い</sup>わ  
なかったのです。





ある夜のことで、サムエルはど  
こからか「サムエル、サムエル」  
と自分の名前を呼んでいる声が聞  
こえてきました。「きっとエリが  
ぼくを呼んでいるんだ。」と思っ  
たサムエルは、「ぼくはここにい  
ますよ。」とへんじをしました。  
ところが、「サムエル、わたし  
は、おまえを呼んでいないよ。」  
とエリはこう言うのです。同じこ  
とが3回もありましたよ。  
そのとき、エリはわかりました。  
神さまが、サムエルを呼ばれてい  
るのだと。そして、神さまは、サ  
ムエルに何か話そうとされ  
ていることがね。





エリは、言いました。「サムエル、もし、もういちど名前を呼ばれたら、こう言うんだよ。はい、主よ、話してください。あなたのしもべはここにおります、ってね。」さて、それからまた、「サムエル、サムエル」って声が聞こえてきました。そしてそこで、神さまは、サムエルにとっても大切なことを、話されたのです。



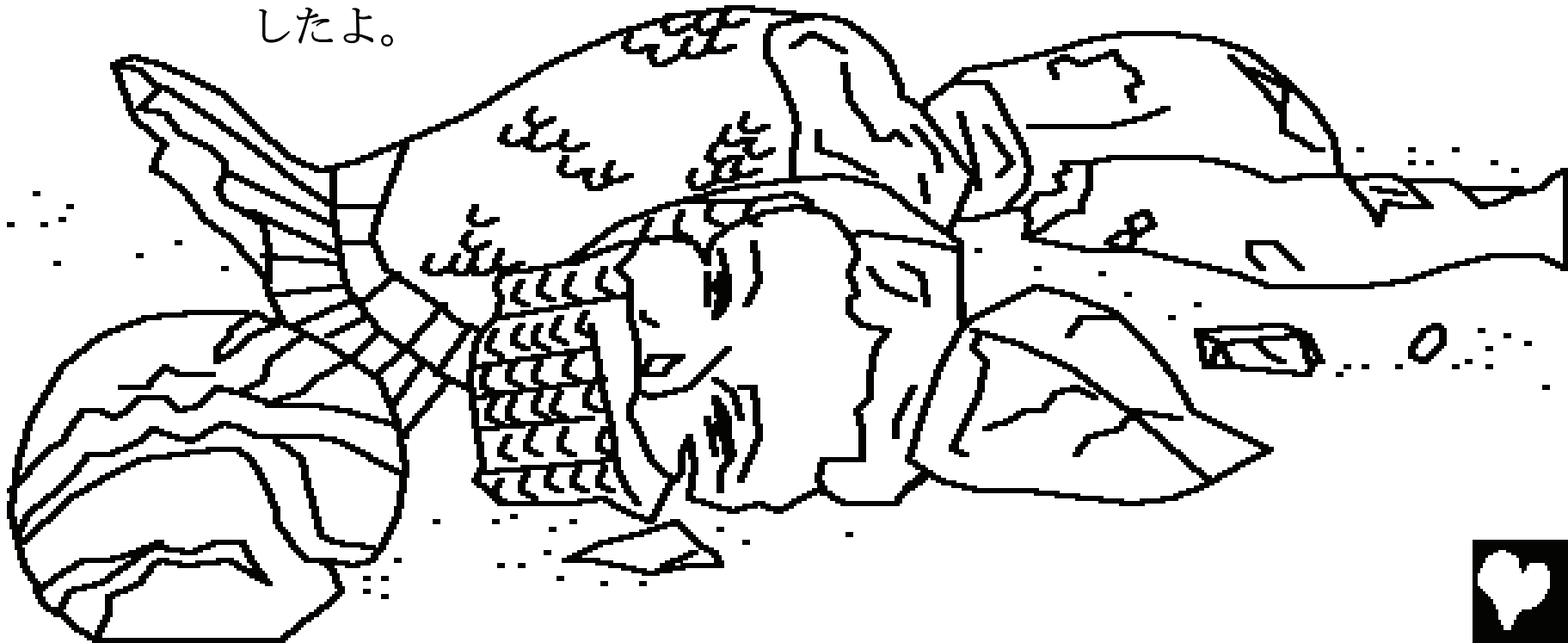
つぎの日の朝、エリはサムエルを呼んで、た  
ずねました。「さあ、話しておくれ。主は  
おまえにいったい何を話されたのかね？」そ  
れは、エリにとって良くない話だったので  
す。でもまだ子どものサムエルは、神さまが  
話されたとおりに、すべてエリにつたえたので  
す。それは、エリにとってひどく悪い話で  
した。神さまは、こういわれたのです。「わ  
たしは、エリの家族の人たちみんなほろぼし  
てしまうだろう。なぜなら、エリのむすこ、  
ホフニとビネハスがあまり  
にもひどすぎるからだ。」



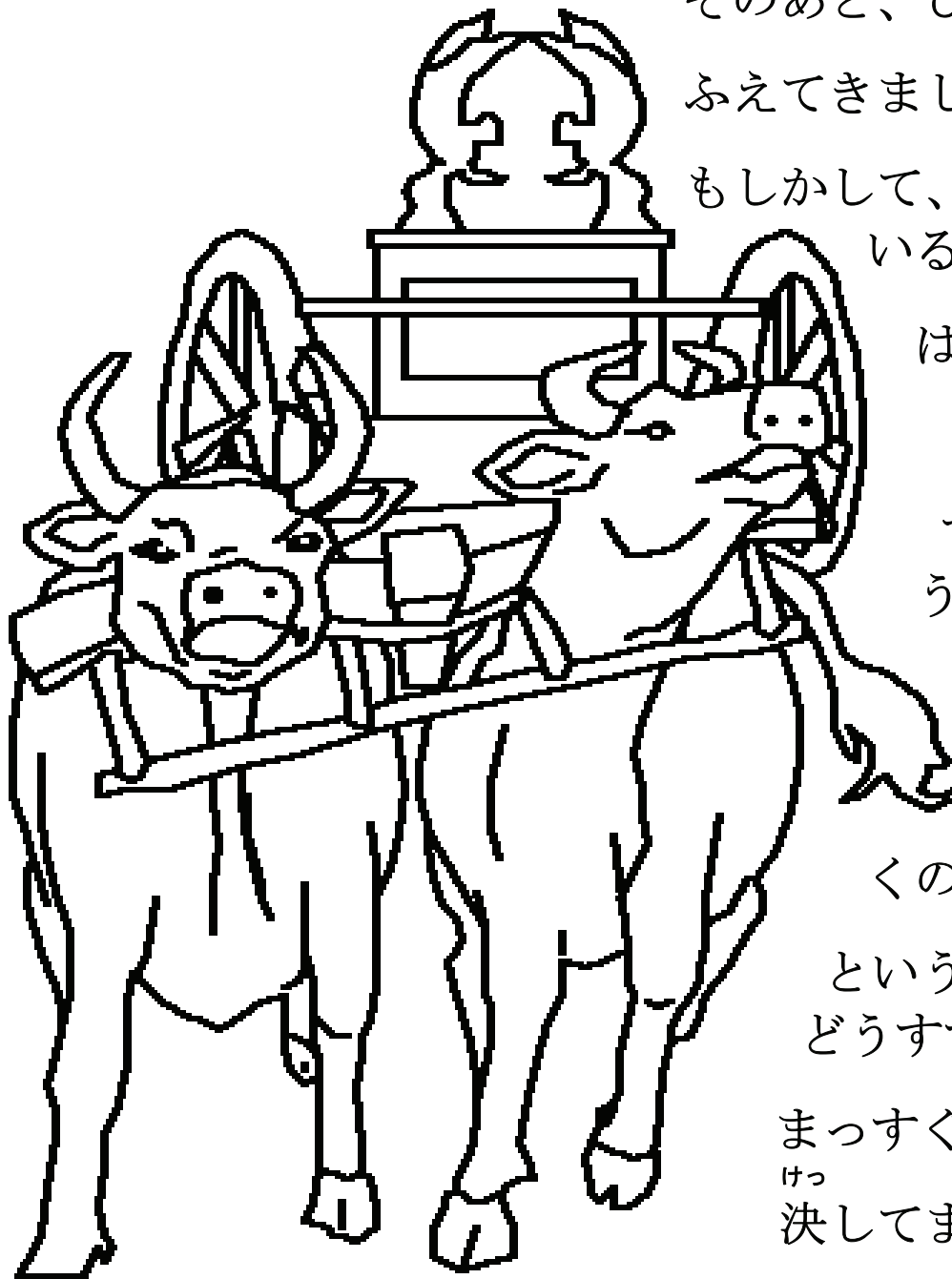
かみ い  
神さまの言われたことは、やっぱりほんとう  
じん たたか  
うでした。ペリシテ人との戦いのあい  
ふたり わる  
だ、エリの2人の悪いむすこたちは、イス  
ぐん かみ はこ  
ラエルの軍のところに、神の箱をはこびま  
てき じん  
した。ところが、敵であるペリシテ人は、  
かみ はこ と  
その神の箱をかれらからうばい取り、それ  
じん ころ  
にまたたくさんイスラエル人も殺したの  
です。もちろんホフニとビネハスも、この  
ころ き  
とき殺されてしまいました。これを聞いた  
エリは、ほんとうにがっくりとしました。  
お くび お  
かれは、イスから落ちて、首を折り  
な  
とうとうその日のうちに亡くな  
ったのです。



かみ はこ じん わる  
神さまの箱をもちかえったペリシテ人は、それからというもののいろいろな悪いこ  
とがおこるようになりました。かれらは、その神さまの箱を、にせの神タゴンの  
しん ひ あさ かみ  
神でんに、はこんだのですが・・・。つぎの日の朝、にせの神タゴンが、うつむ  
お  
きに落ちてたおれているのです。「どうしたことだろう。」と人々は、タゴンを  
ひ あさ お  
もとのところにおきました。ところが、そのつぎの日の朝です。タゴンがまた落  
て あし たい  
ちているのです。ひどいことに、こんどはあたまも、手も足も、そしてどう体  
も、みんなばらばらになっていま  
したよ。







そのあと、ひどい病気が広がり、だんだん死ぬ人が  
ふえてきました。ペリシテ人は、こう思いました。

もしかして、神さまが自分たちにばつを与えられて  
いるのかもしれないって。そこで、かれら  
は2とうのお母さん牛に、神さまの箱を  
のせた荷ぐるまをはこばせましたよ。

でもね、そのお母さん牛の子牛たちは、  
うちにおいておきました。もし、ここで

お母さん牛たちが、まっすぐイスラエ  
ルに向かい子牛のところをはなれて行

くのなら、神さまがばつを与えられている

ということなのです。さあ、お母さん牛は、  
どうすすんだのでしょうか。そう、まっすぐ

まっすぐ、イスラエルに向かいましたよ。

決してまがらずにね。

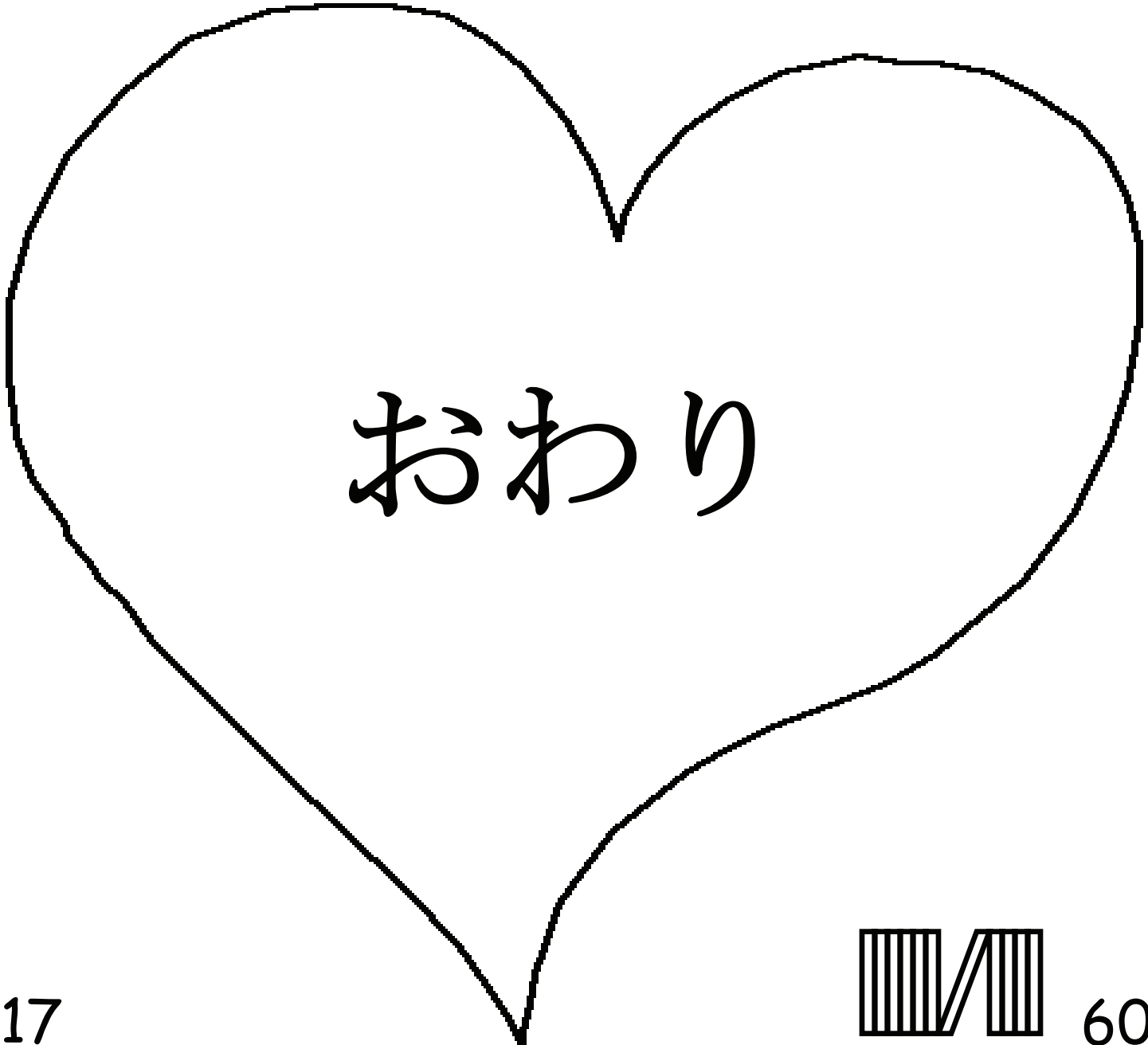




さて、そのころサムエルはどうして  
いたでしょう。もう大人になってい  
たサムエルは、イスラエルの人々に  
こう言いました。「もし、みなさん  
が、心から主を信じ、主のもとに帰  
るなら、主はわたしたちをペリシテ  
人の支配から、救いだしてくださる  
でしょう。」人々はみんな、いつも  
神さまに仕え神さまのことばを伝え  
るサムエルを信じ、そのことばにし  
たがうようになりました。だから  
ね、それから神さまはいつでもサム  
エルがいるイスラエルを、ペリシテ  
人から守ってくださいましたよ。







おわり



せいしょものがたり わたし かみ  
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、  
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、  
おも  
思っていらっしゃるのです。

かみ わたし かみ  
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、していらっしゃいます。それを、神さま  
は、罪とよばれています。その罪のむくいは、死です。

かみ あい ひとり こ  
けれども、神さまは、あなたをとも愛していらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ  
よ おく つみ じゅうじかじょう な  
の世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれども  
それから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさ  
まを信じ、ゆるしてくださいますとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま  
いま ところ き なか す  
は、今、あなたの所へ来て、あなたのこころの中に住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさ  
まといっしよに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってくださいます。  
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な  
愛す神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなっ  
てくださいました。そして、よみがえって、いま生きて  
いらっしゃいます。どうか、私のこころの中に来て、罪をゆるしてくださいます。それで、私は今、あた  
らしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしよにいる  
ことができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができますよう、たす  
けてくださいます。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ  
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

